

tovoから初！あしなが育英会の
ファシリテーター誕生！

震災・津波遺児の心に寄りそうボランティア

ファシリテーター養成講座受講レポート

tovoの活動期間は10年。残り5年。この5年が過ぎれば、当然ながら、このプロジェクトは、すぐに皆の記憶からは忘れ去られていきます。そんなことは別にどうだっていいことですが、でも、消える前に、楽しく支援する『人』を残したい。ずっと僕が強く思い続けていたことを始めます。今年から、tovoのバックアップのもと、年に1人ずつあしなが育英会のファシリテーターを誕生させたいと考えています。僕の声がけにいつも手伝ってくれている坂本小雪さんが一番に手を挙げてくれました。2016年9月10～11日の2日間にわたる陸前高田市での「ファシリテーター養成講座」を受講し、めでたくファシリテーターとなった坂本小雪さんの今の気持ちです。(tovo代表：小山田和正)

被災地のために自分ができることはないかという思いでtovoのお手伝いを始めてからずっと、何かの機会に現地の子どもたちとふれあえたらと考えていて、この度受講してきました。

ファシリテーターは震災遺児の子どもたちが抱える喪失感などを自分で受け入れられるようサポート

する、カウンセラーでも先生でも医者でもない「子どもたちと何かを一緒にする人」。一緒に遊んで話を聞くことが子どもたちの為になるのなら、自分のできるこれ以上のことは無いなと思いました。

講座中、陸前高田の現状を見て回ることもできて、子どもたちが体験したことの片鱗を目の当たりにして身の引き締まる思いでした。

これから少しずつ実践を積んで、肩書きだけではなくしっかり芯のあるファシリテーターを目指していきたいです。(弘前市・坂本小雪)



「tovo」について

「tovo/トヴォ」は東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。

チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。

10年間の活動を目指しています。おかげさまで、**2011年6月から2016年8月29日現在までの総寄付金は、「¥4,466,774-」**となりました。

引き続きのご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

フリーペーパー「tovo plus」



「tovo plus」は、tovoの発行する月刊のフリーペーパーです。月に1度、青森県内のご家族のお話を伺い、311以降の考え方や生活の変化を追っています。100号、100ヶ月、100家族が目標です。

※1年間（12号）の定期購読（1,800円）を承ります。ショップサイトよりお申し込みください。



「ブックログのpapier」にてPDF配信中！

<http://p.booklog.jp/users/tovo2011>

缶バッジお取り扱い店（順不同／2016年10月1日現在）

【青森市】A-Factory（柳川14-2）／kotabi コタビ（新町1丁目5-6）／大澤歯科医院（羽白沢田44-8）／とき歯科（原別5丁目9-1）／oppen plaza sora（金沢1丁目5-2）／oppen plaza sena（石江江渡52-22）／アトリエCANOE（桜川5-5-11）／もぐらや（長島4丁目1番1号）

【弘前市】HOMEWORKS 4th（土手町79-1）／bambooforest（代官町20-1）／津軽工務社（元寺町52）／中国料理 豪華楼（駅前町7-5 おおまち共同パーク1F）

【黒石市】木田理容所（内町29）／津軽黒石こみせ駅（中町5）

【上北郡】西洋料理 ビストロ らあく（七戸町影津内34-10）／TBT英会話教室（東北町旭南1丁目322）

ボランティア大募集！

活動開始より5年が経過し、ここで新しい風を入れてくれるボランティアを大募集中です！青森県内、県外問わず、残り5年を共に歩んでくださる方、是非ご連絡ください！
メール：小山田和正（info@tovo2011.com）

トヴォの最新情報は以下で更新中です。

tovo2011.com SHOP shop.tovo2011.com @tovo2011
https://www.facebook.com/tovo2011 @tovo2011

【発行】代表：小山田和正（mail: info@tovo2011.com）

住所：〒037-0056 青森県五所川原市末広町14-1

【表紙撮影】工藤 文昭



「えっ！？なんで東北6県の中で、唯一青森には芋煮会がないの？」という気持ちをずっと抱きながら生きてきました。いろいろな人に疑問を投げかけてきました。でも、誰もやらないので、トヴォが無理やりはじめます。トヴォの芋煮会。ウェブショップで芋煮会グッズ販売中です！公式キャラクター「モニーくん」もよろしくネ！



www.tovo2011.com

TAKE FREE

Vol.13(OCT.2016)

ALWAYS
WITH YOU



りんごじゃなくて、桃太郎のまち！岡山で tovoのステッカーを 貼った車が走る日

「てづくり市Sorairo」主催者
長森 知加子

岡山県岡山市の長森さんから初めてご連絡頂いたのは、今からちょうど3年前、2013年10月でした。ご自身が主催し、初めての開催となる「てづくり市Sorairo」でグッズを販売したいとのこと。ほとんどの方がそうであるように、この時も1〜2回だけのご支援だと考えていました。でも、気がつくともう3年以上も継続的にご支援を頂いており、「てづくり市Sorairo」も今秋で11回目。僕はずっと長森さんに「なんで？」と聞きたいと思っていました。今回は、長森さんが、その「なんで？」に答えてくれました。



岡山で「てづくり市Sorairo」というハンドメイドイベントを開催しています。作家さんが心を込めて作った作品を直接販売することで、作家さんとの会話も楽しめ、てづくり作品と作家さんを身近に感じることのできるようなイベントを目指しています。2013年秋の初回開催時からtovoのブースを欠かさず設置させてもらっています。今秋で11回目の開催となりました。

「なんで岡山で青森のtovo!？」って思いますよね。それまでの私は気が向いたらレジ横の募金箱に募金するくらいのもので、チャリティとは縁遠い生活をしていました。定期開催のイベント「てづくり市Sorairo」の開催が決まったときに、「人の集まる場をつくるなら、人の役に立つこともしたい」と考えたのがきっかけでした。正直なところ、イベント運営をするにあたり、私利私欲に走らないためという思いもありました(笑)。短絡的に人の役に立つ＝チャリティだ！と考え、いろいろな慈善団体の活動を調べ始めました。気になる活動をされている団体がたくさんありました。ただ、イベント会場でできることが募金箱を置く・パネル展示をすることがメインで、どうもしっくりこないという思いがありました。

イベントの開催も8日後に迫り、第1候補の団体へ連絡しなくてはと開いたネット上でふと目にとまったtovoのりんご！これだ！と思って連絡し、急な話にもかかわらず、すぐに対応していただき今に至っています。

tovoに決めた理由は3つあります。

1. デザインが魅力的

チャリティという入口だけでなく、グッズのデザインという別入口もある！まさに私自身がその別入口からtovoへ足を踏み入れました。「これ欲しい！」が、「他の人の役に立つ」なんて、買う方もちょっと嬉しいし、それが、震災被害を受けた東北へ思いを寄せるきっかけになるなら、押しつけがましくなく自然にtovoの思いが広がっていく、なんて理想的だろうと思いました。



てづくり市Sorairo

「ブックランドあきば高島店(岡山市国府市場60-4)」にて年2回開催。

4月/10月 第3土曜日・日曜日

※定期開催以外に別会場で不定期で開催することもある。

tovoWEEK

「ブックランドあきば高島店(岡山市国府市場60-4)」にて年2回開催。

・3月11日を含む1週間

・夏休み中の1週間



2. 継続的な支援でありながら10年間とゴールもある

これまで自分のしてきたことは災害等がおこった時に設置される、レジ横の募金箱へ募金する程度です。その時々で被災された方のことを考え、できることをと思い募金をしていましたが、その募金箱が撤去された後も支援が必要なの状況があるという事実を目を向けたことはありませんでした。正直、ず〜っと支援をすると掲げてあったら、躊躇してしまっていたかもしれません。10年間と(長い期間ではありますが)ゴールが見えているなら、頑張ることができそうだと思います。すべての災害のその後を思うことはできませんが、せめて東日本大震災で親を失った子どもたちが大きくなるまで、思いを寄せていきたいと思いました。あわせて「てづくり市Sorairo」も同じだけ続くといいななんて目標もできました(笑)

3. 親を失った子どもたちへの支援

復興と言われても、どうなったら復興ができたのか、正直わからないですが、子どもたちが大きくなるまで、「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝える、そんな活動だということがやはり一番の決め手でした。



偶然出会ったtovoでしたが、もっとtovoを知ってもらいたいなあという思いが強くなり、「てづくり市Sorairo」だけでなく、1週間、tovoのグッズ販売をする「tovoWEEK」を年に2回開催するようになりました。こうして続けるうちに少しずつ岡山にもtovoが広がっているかなと思っています。

イベントでは娘たちがtovoのTシャツを着て、tovoブースを切り盛りしてくれています。ままごとの延長で手伝い始めたのですが、気づけば、「東日本大震災で親を失った子どもたちへの支援のためのチャリティグッズなんです。」と聞かれた方へ説明できるようになっていました。少しずつtovoの活動を自分なりに理解したうえで手伝ってくれているのだと感じてうれしくなりました。

イベントに参加してくださる作家さんの中には、tovoパッチをつけて参加してくださる方や、毎回何か1つ購入していただくかたもおられます。実店舗を持っていらっしゃる作家さんが、tovo paperをお店に置いてくださったり、友人が参加するイベントでtovo paperをおいてくれたりもしてくれています。会場を貸してくださっているブックランドあきば高島店は、「てづくり市Sorairo」だけでなく、「tovoWEEK」にも快くご協力くださり、毎回レジ前の大きなスペースにtovoグッズを並べてくださいます。そして、フリーペーパーtovo plusも置いてくださっています。

こんなふうに、少しずつ私の身近なところから広がっていつ、東日本大震災で親を亡くした子どもたちが大きくなり、岡山でtovoのステッカーを貼った車や、tovoバッグを持った人を見かける…そんな日が来るといいなあなんて思いながらtovoの活動を続けています。

